
公立大学法人滋賀県立大学と日本電気硝子株式会社は、 産学連携の協力推進のための包括協定を締結しました。

公立大学法人滋賀県立大学(理事長:曾我直弘)と日本電気硝子株式会社(社長:井筒雄三)は、ガラス工学に関する研究・教育や技術力において各々が有する知的資源、人的資源の交流・活用を通して、新たな幅広い協力関係を円滑に進めるとともに産業の発展と学術の振興を推進するため、産学連携の協力推進のための包括協定を、本日、2月9日に締結しました。協定の期間は本日より平成22年3月31日まで(更新可能)です。

滋賀県立大学は、「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する」大学として、地域・社会における産業振興と学術交流を推進しており、今回の産学連携を大きな意義あるものと位置付けております。また、日本電気硝子(株)にあつては、滋賀県内に主たる事業基盤を有する企業として、本包括協定に基づく連携事業を通じて地域貢献ができるものと考えております。

両者はこれまでも、ガラス工学分野における研究者レベルでの個別的な共同研究等は実施してきましたが、今回の包括協定においては、両者が組織として積極的に交流を行い、研究情報を交換するとともに、人材育成や人材交流のため、以下の連携事業を企画・実施していく予定です。

【連携事業】

- (1) ガラス工学分野における技術開発、新規技術に関する共同研究や技術交流の実施
- (2) ガラス製造プロセス工学に関する寄附講座の設置
- (3) 連携事業に基づく成果発表や情報交換等の実施
- (4) 次世代を担う学生および社員の人材育成に関する相互協力

なお、今回の包括協定の締結に関して、次のとおり、日本電気硝子(株)の寄附による寄附講座の設置が具体化しています。

【寄附講座の概要】

- (1) 名 称 『ガラス製造プロセス工学』
- (2) 設置時期 平成19年4月
- (3) 設置の趣旨 世界のトップレベルにあるわが国のガラス技術が現状を保っていくためには、ガラスの特性を最大限に発揮する効率的な製造プロセスを設計し、製造技術として活かしていくことが必要である。このため、滋賀県立大学のもつガラス工学研究の実績を基に、ガラスの溶融から成型に至る信頼のおけるデータの測定と測定結果の物理化学的体系化等ガラス製造に関する基盤技術の総合的な研究を行うとともに、ガラス研究者・技術者の人材育成に取り組むことを目的とした寄附講座を設置する。
- (4) 寄附金額および
設置期間 総額1億円、3年間設置(延長有)
- (5) 研究体制 滋賀県立大学工学部に「ガラス工学研究センター」を設置し、本寄附講座を置くとともに、学内研究者等の参画を得て共同研究を推進し、ガラス製造技術に関する総合的な研究体制を構築する。